

なでしこ

合い言葉：人にやさしく 学び・かかわり きたえる子

令和4年3月1日

NO.12



かつてあった同じような危機 豚インフルエンザの流行

「21日午前、本校4年生男子児童がPCR検査（精密検査）にかかっている。精密検査の結果は15時にわかり、保健所から保護者、市（危機管理課）、県健康推進課に連絡する予定である。なお、保護者には学校に連絡するようお願いした旨、保健所から連絡が入った。15時ごろ、担任、学年主任、教務を集め、現在の情報と明日への対応を指示した。県から報道機関へ情報が流れるが、学校への確認や問い合わせの取材の可能性もあることがわかり、学校名や学年など、本人が特定できる内容は伏せておくことで統一を図った。」



これは、現在の新型コロナウイルス対応に関するものではありません。2009年に流行した新型インフルエンザ（豚インフルエンザと最初は言われていました）に対して、当時の老上小学校長が残されていた記録です。私も、この記録を見つけるまでは、新型インフルエンザが流行したことも、その対応に苦慮したことさえ忘れていました。2009年度は新型インフルエンザの蔓延を防ぐことが優先され、運動会や修学旅行、校外学習といった行事も慎重に進められていました。まさに、今の状況とそっくりです。

この校長先生は、卒業式の式辞でも新型インフルエンザの流行について触れて、このように子どもたちに語られました。

「新型インフルエンザの流行は、私たちに大切なことを教えてくれました。一つは世界の片隅で起こったことが、あっという間に私たちの大きな問題となって降りかかってきました。遠い世界の片隅で起こったことでさえ他人事ではないということです。人権の学習でも同じことを学びました。“ひとごと”と考えてはいけないということです。もう一つ、感染が広がってきたときに気づいたことですが、“感染は、自分の国だけではとても防げない”ということです。あのとき、世界中の人が力を合わせてワクチンを開発しました。製造したワクチンは国を超えて必要としている人から接種が始まりました。人類にとって大変な問題は国の壁を越えて、力を合わせて行動しなければ解決できないことに気づきました。知らず知らずのうちに世界が一つになって新型インフルエンザと戦っていたのです・・・」

今はまだ、新型コロナウイルス感染拡大は収まっていません。しかし、2009年の新型インフルエンザの流行が収束したように、必ずコロナを克服できる日がくるはずで。子どもたちの流行がピークを迎えましたが、幸いなことに若年層での重症化はわずかです。ワクチンの接種が進み、経口薬の開発も進んできました。コロナとの共存を前提に、マスクの着用を求めない国も、世界の中では見られるようになってきました。

2月は学年閉鎖が続き、子どもたちだけでなく保護者の皆様にも多大なる協力をお願いすることとなり、申し訳なく思っています。あと少し、この困難な時期を乗り越えるために力をお貸しください。お願いします。

びわ湖ホール 声楽アンサンブル・5年生

2月1日(火)5年生がびわ湖ホールの声楽アンサンブルの音楽教室を受けました。びわ湖ホールからピアニストの方1名とアンサンブルのメンバー2名が来てくださり、迫力ある生の音楽を聴かせていただきました。体育館に響き渡るきれいな歌声にみんな酔いしていました。感染対策として体育館の換気をして、人数も学年の半分の人数で2回に分けて聞きました。アンサンブルの方にはマスクをしていただき、同じ内容で2回歌っていただきました。子どもたちの感想を紹介します。

私は今まで、生で男性、女性の声をきき比べたことがなかったので、実際に体育館できけてうれしかったです。一番心に残ったのは「ホール・ニュー・ワールド」です。二人の音がきれいに重なり、いつまでも頭の中で繰り返されるようなきれいな音になって耳に届くのがすごかったです。男性のソロの時は、低く大きい声を出してその響きにワクワクしました。女性のソロの時は、私には出せないような高い声を出されていたので、背筋がゾクゾクとしました。男性のソロによる動物の鳴き声の歌は、本物に似ていたし、リズムが良かったのでききやすかったです。また、二人で歌っていた「ねこの歌」は『ニャオ』しか言っていないのに動きや顔で完全に表現していたのがすごいと思いました。最後に歌ってもらった草津小学校の校歌は、自分の学校の歌なので特別にきこえました。プロの人に歌ってもらえる機会はほとんどないので、この音楽鑑賞会で歌ってもらったことを忘れず、音楽についてもっと世界を広げていこうと思いました。

歌い方によって、楽しいや悲しいなどが違った『ホール・ニュー・ワールド』は二重唱にすることで、一人で歌うよりも頭に場面の絵が浮かびました。ピアノの方も、腕をいっぱい動かしていてカッコいいなと思いました。クスッと笑ってしまう歌や、少し切ない気持ちになる歌がありました。ピアノ、歌声があるからこそ、一つの曲になるということに気づきました。人の声は何でもできる、動物や物を細かく再現できることがすごいなと思いました。



春近し なでしこガーデンに卒業記念の苗植え・6年生

2月17日(木)、卒業まであと1か月余りとなった6年生が、卒業記念として草津小学校の校章でもあるなでしこの花の苗を植えました。湖南農業高等学校の先生と生徒のみなさんに、事前に土づくりや苗の準備をしていただきました。また、当日も協力していただきながら苗を植えました。春には、新1年生、そして1学年ずつ進級した在校生に、「なでしこガーデン」一面に広がる美しい花畑を見せてくれることでしょう。在校生は6年生が植えたこの花を大事にしてほしいと思います。

かつては、かちこちに固まり土手ようになっていた花壇が、草津小学校のシンボル「なでしこ」の花で彩られるようになってから5年が過ぎました。環境ボランティアのみなさんや、湖南農業高等学校園芸部の手厚い支援、市民センターの助力を得つつ、この花壇は草津小学校の自慢の一つになりました。これからも美しい花を咲かせ、子どもたちの心に優しさを届けてほしいと思います。



4年生の活躍・・・相次ぐ学年閉鎖を乗り越えて

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、2月3日（木）1年、5年、6年生が、2月4日（金）には3年生も学年閉鎖になり、2年生と4年生だけが登校する事態になりました。5年生、6年生がいないことで、分団登校や校内の掃除、高学年が担っている放送当番など心配はつきませんでしたが、4年生がよく頑張ってくれました。掃除の放送を流したり、1年生の教室掃除を引き受けたり、高学年が担当している玄関や昇降口をいつも以上にピカピカにしたりしてくれました。また、登校では、低・中学年が班旗を持って整然と分団登校をリードし、安全に学校まで連れてくれました。急に分団登校を任されても、安全に登校することができたのは、それぞれの分団がきちんと整列して登校する習慣ができていた成果だと思います。また、登校の安全を見守ってくださった多くの保護者の方のおかげです。ご協力いただき、ありがとうございます。心より感謝しております。

まだしばらくは、気の休まらない毎日が続きますが、基本的な感染対策を徹底して、子どもたちの育成に努めていきます。



放送をがんばる4年生

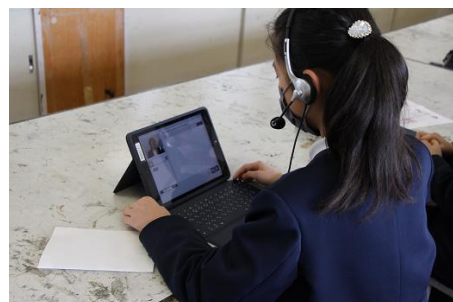
マンツーマンでのオンラインレッスン・・・6年生

草津市の小学校では、平成27年度からフィリピンの講師の方と英会話を楽しむオンラインレッスンを行ってきました。今年度はバージョンアップして、1回目は今まで通り子ども15人对講師の方1人、2回目は子ども3人に講師の方1人、そして2月14日は子ども1人に講師の方1人のマンツーマンで英語会話レッスンを行いました。

自分のタブレットPCにヘッドセットをつなぎ、フィリピンの講師の方とビデオ通話を行います。簡単なテキストを提示していただきながら最初は講師の方から聞かれた質問に答える形でスタートしました。間違えたり聞き取れなかったりすることもありましたが、徐々に緊張もほぐれて会話が弾むようになっていきました。硬かった表情も柔らかくなり、英会話を楽しんでいる様子がよくわかりました。小学生の頃からこのような学習経験を積むと、英語に対するハードルがぐっと低くなりますね。感想を紹介します。

3回とも楽しくオンラインレッスンすることができた。フィリピンの先生も優しく、私も知っている英語を使って会話をすることができた。わからないことがあったら「もう1回言ってください。」と英語で言って聞き直すこともできた。外国の人と会話するのはとても楽しかった。

はじめは『いやだなー』とか思っていたけれど先生と楽しく会話できた。「すべて英語」ということがなかなかないので、めっちゃ楽しかった。みんなと一緒に会話するのも楽しかったけれど、一人ですると何か自分と先生の部屋にいるようで「二人っきり」というのも楽しいうれしかった。はじめは緊張したけれど、やはり始めてみたら楽しかった。



「跳び箱」を使った学習・・・がんばってます！ 全校

1月末から2月にかけて、体育館での体育学習は「跳び箱」が中心になります。鉄棒やマット運動も含めて、器械体操系の運動は「できる・できない」がはっきりするため、苦手な子どもにとっては苦痛を伴う学習になりがちです。また、体育科の学習で一番怪我の発生が多いのも跳び箱の学習です。そんな「跳び箱運動」を楽しく、また「やった、できた！」という達成感が味わえるように、体育主任を中心に場の工夫や丁寧な支援を進めてきました。今年度は、中学年から挑戦する台上前転や、高学年が取り組む「閉脚飛び」「頭はね跳び」などにも怖がらずに積極的にチャレンジする子どもたちが増えました。映像資料を見て動きのイメージづくりをしたり、タブレットPCで技の出来具合を録画して自分で見たりすることで、演技の完成度も高まりました。体育科で得た達成感や自信は他の教科のやる気にもつながります。準備や後片付けも含めて、学校全体でサポートを進めていきます。



映像資料を見ながらポイントを見つける



抵抗の少ない柔らかな場づくり



苦手な子どもも積極的にチャレンジ！



短い幅で小さく回る前転練習



幅の狭いマット上で前転



最後は跳び箱を使った台上前転

6年生を送る取組が始まりました・・・全校

6年生の卒業まであとわずか。小学校生活の締めくくりを楽しく過ごしてほしいと、5年生が中心になって企画した6年生を送る取組がスタートしました。

2月14日からは、学年ごとに6年生と一緒に遊び、笑顔溢れる時間を過ごしています。ドッジボールやおにごっこで遊んだ後には、感謝の言葉や手作りのメダルが贈られました。下学年と仲良く写真に納まる6年生の笑顔がとても素敵です。

6年生は、優しく面倒見の良い児童が多いので、下学年からは大人気です。下学年の良いモデルになってくれました。

